

ホタテガイ採苗速報

稚貝採取は2分では西湾で6月末 東湾で7月上旬からできる見込み

1 各地採苗器への付着状況

6月4～8日に行った第2回臨時付着稚貝調査の結果は、図1～3および表1のとおりです。ホタテガイ稚貝の平均付着数は、西湾で53,299個/袋、東湾で280,064個/袋と過去10年の平均値(平年値)83,964個/袋、316,020個/袋より少なくなっています。

ホタテガイ稚貝の平均殻長は、西湾で2.53mm、東湾で1.51mmとそれぞれの平年値1.08mm、1.07mmより大きいサイズとなっています(6月下旬の第2回全湾付着稚貝調査時の過去10年平均値(間引き前)はそれぞれ2.26mm、1.46mmでした)。

2 水温の状況

各ブイの6月4～10日の日平均水温は、表2のとおりです。平年と比較すると、15m層の6月第2半旬平均水温は、平館ブイでやや高め、青森ブイと東湾ブイで平年並みとなっています。

3 今後の見込み

稚貝の大きさから判断して、1分5厘のネットに稚貝採取する場合は西湾で6月下旬、東湾で6月末、2分で採取する場合は西湾で6月末、東湾で7月上旬からできる見込みです。ただし、付着数や間引きの時期、今後の水温の動向によって成長に差があるので、稚貝の成育状況を見ながら作業を進めてください。

なお、6月22日に第2回全湾付着稚貝調査(間引き前と間引き後の中層、合計2袋)を実施し、稚貝採取の詳細な時期については6月25日に発行予定のホタテガイ採苗速報第10号に掲載しますので、参考にしてください。

4 稚貝採取時の注意事項

(1) 稚貝を大切に扱きましょう。

- 作業は早朝の涼しい時間帯に行い、タライや水槽の水温が上がらないように、シート等で直射日光を防ぎましょう。
- 高水温時にはタライや水槽の水は出来るだけ深い水深帯から汲み上げるようにしましょう。水温上昇や酸欠で稚貝が死んだり、成長不良になる危険性があるので、タライや水槽の水はかけ流しにするか頻繁に交換しましょう。
- 稚貝は乾燥にも弱いので、手早く作業を行いましょう。

(2) 適正保有数、適正収容数を守りましょう。

- 稚貝採取では決められた保有数を守りましょう。
- パールネット1段当たりの収容数を適正にしましょう。採苗時期が1か月早いことから、秋の分散時期には殻長が平年以上に大きくなり、異常貝が多くなる危険性があります。分散が遅れた場合に備えて、パールネットには稚貝を少なめ(50～100枚/段)に入れましょう。

(3) 採取後の管理に気をつけましょう。

- 採取後の稚貝が足糸でネットに付着しているかどうか見ながら作業を進めましょう。
- 水深が浅いほど水温は高く、潮も速いので、採取後は施設を中層以深に沈めましょう。また、立ちきり(土俵)やオモリをつけて、施設やネットを安定させましょう。
- 採取後も一部の採苗器を残しておきましょう。

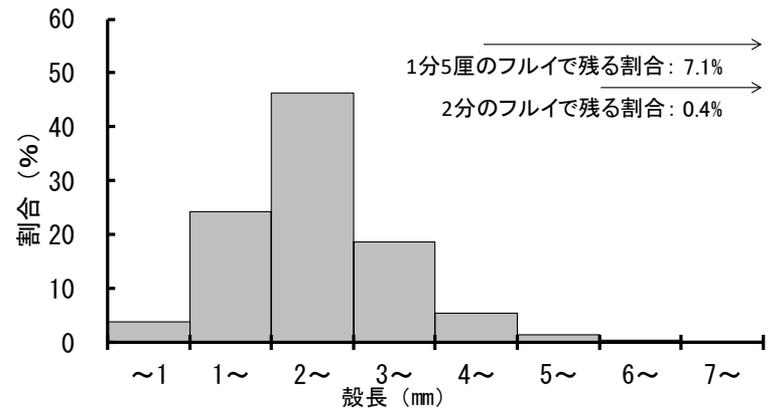


図1 ホタテガイの殻長組成(西湾平均)

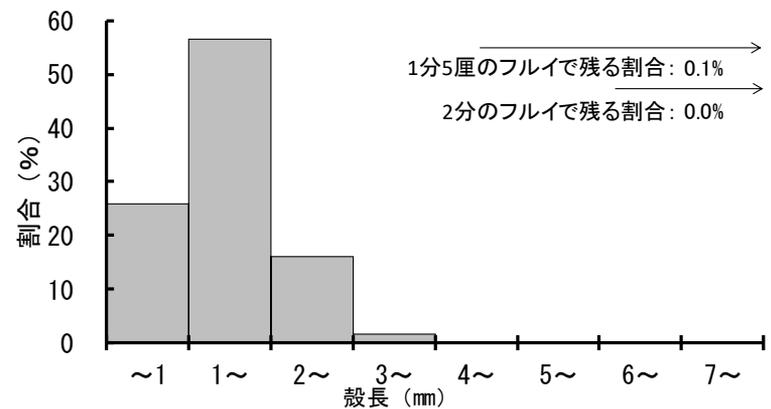


図2 ホタテガイの殻長組成(東湾平均)

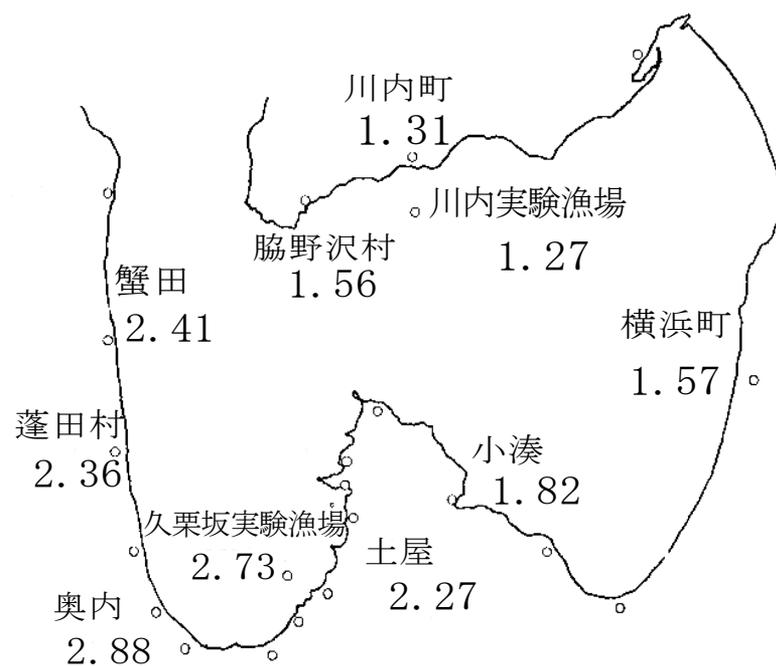


図3 調査地点毎の平均殻長[単位: mm]

